

# A 県看護協会が研修受講に対して重要視する事項

## －看護管理者と会員の相違－

キーワード：継続教育 研修受講支援 ラダー

○西村明子 奥山はるみ 渡辺千奈美 内田一美 雨宮ふく美 渡邊清美 海野聖子 奥脇百合子  
小田静 北川なおみ 齊藤弓子 新藤真由美 水下陽子 土屋真理子 永田明子 中山美加  
日澤けさ美 松野優子 望月美恵 池田直子 小宮山裕子 堀口まり子

平成 28・29 年度 公益社団法人山梨県看護協会教育委員会

### I. はじめに

山梨県看護協会では、平成 17 年度の教育研修ニーズ調査を受け、研修内容の変更、クリニカルラダー（以下ラダー）システムの導入と強化、継続教育の体系化を図り、年間約 50 件、参加者人数延べ 2,000 名の研修を企画・運営してきた。近年、診療報酬改定にあわせて企画した研修への受講者は増加しているが、その他の研修は減少している。社会変化に伴い、看護職者の研修に対する考えや期待する内容、参加しやすい環境なども変化している。そこで、看護協会看護管理者（以下管理者）と看護協会スタッフ看護職者（以下会員）の研修に対する意識の相違を明らかにすることで、会員の研修受講を促し参加調整への示唆がえられ、また、研修企画に活用できると考えた。本調査では、山梨県内の全看護協会（看護管理者・スタッフ看護職者）を対象とし研修受講時に重視している事項を調査した。

### II. 目的

管理者と会員が、山梨県看護協会主催の研修受講時に重視している事項について管理者と会員の相違を明らかにし、会員の研修受講を促し参加調整への示唆を得ることと、今後の研修企画への示唆を得ることである。

### III. 方法

1. 対象者：管理者 230 名、会員 5,581 名
2. 調査期間：平成 29 年 3 月～5 月
3. 調査内容：職種、所属施設、職位の基本属性および、研修受講時に重視している 12 項目を「はい」「いいえ」で回答を求めた。
4. 調査方法：3 週間の留め置きによる郵送法とした。管理者および会員に依頼文書と無記名の調査票を配布し、個別の返信用封筒で返送してもらった。
5. 分析方法：基本属性および研修受講時に重視している項目は基本統計量を算出し、管理者と会員の相違はイェーツ補正  $\chi^2$  検定を行ない、有意確率を 5% とした。解析は統計ソフト SPSS ver. 24 を用いた。

6. 倫理的配慮：本調査は公益社団法人山梨県看護協会理事会の承認を得て実施した。対象者に調査の趣旨参加の任意性、個人情報保護等文書で説明し同意を得た。また、調査協力への強制力を排除するため、管理者へ提出確認は不要であること文書で説明し依頼した。

### IV. 結果

1. 管理者の回収数は 139 名 (60.4%)、有効回答数は 103 名 (74.1%) で、会員の回収数は 4,296 名 (77%)、有効回答数は 4,160 名 (97%) であった。

2. 対象者の概要

#### 1) 管理者

管理者の職位は、看護部長相当 33 名 (32%)、看護師長相当 23 名 (22.3%)、副看護師長相当 17 名 (16.5%)、その他 30 名 (29.1%) であった。所属施設は、行政機関 24 名 (23.3%)、病院〔400 床以上〕2 名 (1.9%)、病院〔100～399 床〕24 名 (23.3%)、病院〔99 床以下〕10 名 (9.7%)、介護施設 6 名 (5.8%)、訪問看護ステーション 16 名 (15.5%)、その他 21 名 (20.4%) であった。ラダーは全体の 27% で導入し、100 床以上の病院では 81% であった。

#### 2) 会員

会員の職種は、保健師 310 名 (7.5%)、助産師 127 名 (3.1%)、看護師 3,290 名 (83.9%)、准看護師 233 名 (5.6%) であった。所属施設は、行政機関 298 名 (7.2%)、病院〔400 床以上〕1,158 名 (27.8%)、病院〔100～399 床〕1,956 名 (47%)、病院〔99 床以下〕296 名 (7.1%)、介護施設 77 名 (1.9%)、訪問看護ステーション 160 名 (3.8%)、その他 160 名 (3.8%)、なし他 55 名 (1.1%) であった。

3. 研修受講時に重視している事項 (表 1)

「関心のあるテーマ・内容」は管理者・会員共に 9 割以上が重視していた。管理者と会員の比較では、「受講意欲の高さ」、「受講しやすい日数」、「受講しやすい時期」、「研修情報が適当」、「施設のラダーと合致」「自施

設にない研修」、「他施設受講者と情報交換」で有意差があった。「施設のラダーと合致」のみ、会員の割合が管理者より高く、他の6項目は管理者の割合が高かった。

表1 管理者と会員が研修受講時に重視している事項の相違

項目		はい(%)	いいえ(%)	$\chi^2$ 値	p値	
関心のあるテーマ・内容	管理者	101(98.1)	2(1.9)	2.9	0.134	n.s
	会員	3888(94.0)	246(6.0)			
受講意欲の高さ	管理者	96(93.2)	7(6.8)	7.8	0.008	**
	会員	3243(82.8)	675(17.2)			
受講しやすい日数	管理者	96(93.2)	7(6.8)	7	0.012	*
	会員	3302(83.4)	655(16.6)			
受講しやすい時期	管理者	93(90.3)	10(9.7)	14.6	0.000	**
	会員	2869(73.5)	1032(26.5)			
受講しやすい時間帯	管理者	89(86.4)	14(13.6)	2.7	0.127	n.s
	会員	3132(79.8)	792(20.2)			
費用の負担がない	管理者	88(85.4)	15(14.6)	1.9	0.211	n.s
	会員	3163(80.8)	793(20.0)			
受講手続きが簡便である	管理者	83(80.6)	20(19.4)	1.8	0.333	n.s
	会員	2951(76.0)	934(24.0)			
利便性が高い	管理者	83(80.6)	20(19.4)	1.9	0.212	n.s
	会員	2886(74.7)	979(25.3)			
研修情報が適当である	管理者	94(91.3)	9(8.7)	4.9	0.037	*
	会員	3219(83.0)	661(17.0)			
施設のラダーと合致	管理者	54(52.4)	49(47.6)	4.5	0.045	n.s
	会員	2047(62.6)	1436(37.4)			
自施設では学習できない内容	管理者	96(93.2)	7(6.8)	7.1	0.011	*
	会員	8283(83.4)	655(16.6)			
他施設を受講者との情報交換	管理者	83(80.6)	20(19.4)	10.9	0.001	**
	会員	2516(64.9)	1362(35.1)			

イエーツ補正 $\chi^2$ 検定 \*\*p<0.05 \*\*\*p<0.01 n.s:非有意

## V. 考察

管理者・会員共に重視している事項は「関心のあるテーマ・内容」であった。朝田らは、院内教育支援のあり方に関する研究で、「どうしたら研修に参加できるか」に対して、「興味のあるテーマであれば参加する」が75%で最多数であったと報告している<sup>2)</sup>。研修に対して受講者が関心を示すように、興味や関心を惹くテーマ設定することが、参加を促す重要な要因の一つであると同えた。

管理者と会員の比較では、「受講意欲の高さ」、「受講しやすい日数」、「受講しやすい時期」、「研修情報が適当」「自施設にない研修」について管理者の9割が重視していた。寺島らは院内教育実施上の困難として、研修時間の確保、教育内容の適正さ、学習意欲などをあげている<sup>3)</sup>。院内教育と院外教育の違いはあるが、院内教育では困難であるが故に重視していることを示した結果ではないかと考えられた。受講意欲については、会員の受講動機の26.3%が「上司の勧め」であり<sup>4)</sup>、上司の勧めや職場の状況など本人の意志による受講でないことが要因として考えられた。施設規模は400床以上が27.8%であり、中小規模の施設が多数であった。中小規模の施設では研修企画が困難であることが報告されている<sup>3)</sup>。研修を実施できない施設管理者の期待が大きいと考えられた。「他施設受講者と情報交換」は、管理者の立場から期待する事項であるが会員の意識は低かった。研修の多くは1日であり、短時間の中で他施設受講者と情報交換をすることへの意識は低いと考えられた。「施設のラダーと合致」は管理

者・会員共に重視する割合は低かったが、管理者より会員のほうが重視していた。山梨県看護協会では、平成17年度の教育研修ニーズ調査を受け、ラダーシステムの導入と強化を図ってきた。協会研修におけるラダーは、各施設のラダーとは異なるものであるが、教育計画の中で説明をして意識付けている。ラダーを取り入れている施設の割合と重視の割合は低いが、会員個人の意識としてラダーが認識されていると考えられ、協会の取り組みの成果が示唆された。

以上より、会員と管理者の研修受講時に重視している事柄は類似していたが、会員よりも管理者の方が、「受講意欲の高さ」、「受講しやすい時期」、「他施設受講者と情報交換」を重視している傾向があり、管理者は会員の研修受講に際して、受講意欲や勤務体制に影響する時期を重視し、他施設との交流機会として研修参加を促していると考えられた。

本研究は、平成28年度の企画のみに対する意見であることが限界である。

## VI. 結論

山梨県看護協会の研修参加に対して最も重視していた事項は、管理者および会員とも「関心のあるテーマ・内容」であった。会員と管理者の比較では、会員よりも管理者の方が、「受講意欲の高さ」、「受講しやすい時期」、「他施設受講者と情報交換」を重視し、管理者は会員の研修受講に際して、受講意欲や受講時期を重視し他施設との交流機会として研修参加を促していると考えられた。

以上より、的確なテーマ設定、受講しやすい日時や時期の工夫、「中小規模施設の要望を担う研修企画、他施設受講者の情報交換ができる工夫の必要性」が示唆された。

## VII. 引用文献

- 1) 泉宗美恵他: Y県看護協会における教育研修に対するニーズ調査, 山梨看護学会誌, 15(1)110-111, 2007.
- 2) 朝田恵美他: 当院の看護師キャリア開発に対する意識の現状を知り支援のあり方を検討する, 徳島市民病院医学雑誌, 31, 53-59, 2017.
- 3) 寺島美紀子他: A県の看護管理者が認識する院内教育の現状と実施上の困難, 第44回日本看護学会論文集 看護管理, 43-46, 2014.
- 4) 奥山はるみ他: 県内看護職者の継続教育研修受講の実態, 山梨看護学会誌, 25(1)58-59, 2017.

本研究は平成28・29年度山梨県看護協会教育委員会が実施した。